

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年1月16日発行 No.28

『目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る 天地を造られた主のもとから。どうか、主があなたを助けて 足がよるめかないようにしまどろむことなく見守ってくださるように。』

(旧約聖書 詩編 第121編 1～3節)

<新年早々チャペルでおめでたいイベント!? ブライダル産業論で模擬結婚式を挙行!!>

冬休みも終わり、授業や昼礼拝も始まっていますが、先週はチャペルがフワッと華やかになる一時がありました。経済学部のブライダル産業論で、業者さんの協力を受けながら模擬結婚式が行われたのです!! 受講生の代表が、実際に美しいドレスに身を包み、プロの司会者や奏楽者のリードを受けつつ、チャペル後方から入場してくると、約100名の受講生たちが拍手を捧げ更に華やかさを高めていました。この日は、最近話題の「人前式」(宗教等に拘らずに、友人やお世話になった方々を招いての結婚式…ここはチャペルなんですw)で行われました。どのような時代であっても、人生の節目を大切にしたいという思いは、普遍的な願いであると思います。KIUで「仕える」ことを学んだ学生が、そのような大切な場面で多くの人に喜びを伝えられる人になって欲しい…。このような学びの為にもチャペルは用いられています。



コーディネーターと共にパチリ



舌の滑らかさは流石プロの司会者



祝福の拍手に包まれて…

<チャプレンのドタバタ珍道中 その②!! 冬休みは静岡の「東山荘」!! 霊峰富士が輝く!!>

皆さん、年末年始はどのように過ごされましたか? 私は家族で静岡県にある日本YMCA同盟の「東山荘」に宿泊し、富士山の魅力を存分に味わってきました!!「富士は～日本一の山～♪」という童謡にもあるように、昔から人々に癒しと力を与え続けてきた富士山。その恵みを受けて心も体もリフレッシュ!! 新しい年を歩み出すエネルギーが与えられました。また、酉年に相応しい、キリスト教センターのより一層の飛躍をお願いしてきました!!!



初日を受けて輝く富士山の前で



礼拝のお話も担当しました

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

1月10日(火) 八木 知人(リハビリテーション学部)

テーマ:「命」

現在、私は小児科専門医としても働いているが、研修医時代を送った大学の付属病院では、入院している子供のほとんどが進行した悪性腫瘍、つまり癌の子供たちであった。皆、痛くて辛い経験をしているのに本当に明るい。その内の一人、私の担当していた子供は、ほぼ末期で治療薬の効果が薄く、治療が大変難しい状況であった。ご両親もよく理解されており、それでも自分の体を使ってでも治って欲しいという気持ちが痛いほど分かった。我々も、あきらめるという選択はなく、試行錯誤しながら治療を行った。誰もが無我夢中であった。全ての患者が治る訳ではない事は初めから分かっていたが、自分の患者の死に直面した時、初めて私の中で『あきらめても良い』という感覚が無くなったはなくなったように思う。あんな小さな子供が健気に病気に戦う姿を見た時、そのご両親の思いを感じた時、自分も時々、心が折れそうになる事はあるが、あきらめずに前を見て進もうと考えるようになった。皆さんもこれから色々な苦難に直面する事があると思うが、『あきらめる』前に一度立ち止まって『あきらめない』という選択肢もあるという事をじっくり考えることも大事だという事を忘れないで欲しい。

1月11日(水) 野間 光顕(チャプレン)

テーマ:「山辺に向かいて」

私は、この冬休みに家族で静岡へ旅行し、日本一の標高3776mを誇る『富士山』が時によって刻々と表情を変える様や、周りにある雄大な自然に触れる機会が数多く与えられた。それらはただ美しいだけでなく、人間では作り出せない、自然の力によって織りなされる雄大さと神秘的魅力を持っていた。富士山のガイドを務める男性の話によると、富士山は元々2000mぐらいの山だったらしく何度も噴火を繰り返し今の大きさになったそうだ。また、もう一つ特徴が、「水」の存在だ。莫大な面積を占める富士山は、常に気候の影響を受け続けており一日に100万tの湧水が生まれる、別名「水の山」と呼ばれるほど付近の住民に豊かな水資源を与え続けている。

話を聞きながら、私は『山を見上げる』事の大切さを考えさせられた。山は、昔から多くの人々に希望を与えてきた。多くの民族が山頂に住む神の存在を認める文化を持っているが、それは、『山』から多くの恵みを受け、またその中に神の存在を感じてきた事の証である。新しい年の歩み、大学では1年間の総仕上げである年度末を迎えるが、そのような時こそ、今一度、顔を上げて、このKIUを力強く導かれる神の存在を見上げながら共に歩みを進めて行きたい。

1月12日(木) 石原 正彦(キリスト教センター主務)

テーマ:「みんな幸せ？」

人それぞれに苦しみや悲しみを抱えている。それを考える時、学生時代に訪れたパプア・ニューギニアを思い出す。日本とパプア・ニューギニア、どちらが幸せだろうか？ 物質的に見れば、日本の方が豊かで幸せに見えるが、時間に縛られ、あふれる情報に惑わされ、停電したら生活ができない。そして人間関係に悩み、孤独死も多い。一方、パプア・ニューギニアの人たちは、自然のサイクルで生活し、家族(犬も豚も家族)を大切にする。日本人は、物があるが心が貧しい。パプア・ニューギニアの人は物が無いが、目が生き生きして心が豊かであった。

KIUには、チャペルで独りお祈りされる職員がおられる。チャペルに来て、イエスを仰ぎ見て祈り、心の平安を感じる事を大切にされている。KIUに繋がる皆さんに伝えたいこと。チャペルは誰でもいつでも入れるように鍵をかけていない。独りになって自分に問いかけたり、失恋で悲しんだり、就職活動が不安なときにイエス様を仰ぎ見、話しかけて欲しい。平安とヒントをきっと与えて下さるはずだ。今日の聖句『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書かれているように、私たちが生きていくのに必要なものは、神が必ず備えて下さる。

(文責:野間 光顕)